

電線販社大手のS F C C

新製品の高圧アルミケーブル 太陽光発電所(鹿児島県)に初納入

昭和電線ホールディングスと古河電工の建

設用電線販売会社であるS F C C(本社・川崎市川崎区、社長・黒須光明氏)は新製品の高圧アルミケーブルを鹿児島県の太陽光発電所に初納入した。これまでのアルミケーブル

は600^{ボルト}対応だったが新製品は6600^{ボルト}の高電圧に適用できる。アルミケーブルの新製品・従来品ともに納入し、発電所建設における延線工事の省力化・省人化・効率化に

貢献した。古河電工とS F C Cが17日に発表した。

S F C Cでは古河電

工グループが開発・製造した高機能型アルミ導体C V ケーブル「らくくアルミケーブル」

「らくくアルミケーブル」を注力製品の一つに位置付けている。一般的な銅導体のケーブルよりも大幅に軽いが、高い柔軟性で曲げやすく施工現場の負担軽減に貢献できる製品。今回新製品を初納入したのは同県の阿久根第1発電所と阿久根第2発電所の建設工事。延線作業の効率化で工期短縮を実現できることから採用された。

今回使用された「らくくアルミケーブル」は6600^{ボルト}対応品が447^{メートル}、600^{ボルト}対応品が4897^{メートル}となっている。採用により約2割の省力化を実現したという。



高圧アルミケーブルを納入した阿久根第1・第2太陽光発電所

